

## 経済倶楽部便り

◆東京◆ 2月の講師の一人は拓殖大学海外事情研究所教授の富坂聰氏でした。2月に台湾總統選挙を直接取材された印象から話されました。結果は總統選は民進黨、議会は国民党という捻じれになりました。が、選挙民は予想外に無関心派が多く、「選挙より今の生活をもっとよくしてくれ」との声がほとんどとのこと。中国の台湾への見方の変化も対岸にある厦門で取材されたそうで、詳しくは4月号に掲載されます。

1月末の理事会で承認された新会員は7名です。このうち東洋経済新報社役員2名以外は以下の5名です。伊藤邦昌様、吉村輝寿様、安藤

均様、安藤・間役員室顧問の金子治行様、SMB Cコンサルティング・ソリューション開発部グループ長の福本創平様です。

4月の講師は上智大学教授の前嶋和弘氏、慶應義塾大学教授の西野純也氏、伊藤忠総研主任研究員のチョウ・イーリン氏、法政大学教授の小黒一正氏を予定しています。

◆中部◆ 2月の講師の一人は軍事アナリストの小川和久氏。中国の台湾侵攻の可能性について米軍来襲までの30日間に100万人レベルの上陸が必要で現状では難しい。同様の指摘を米軍の高官が行っても、メディアは台湾有事ばかりを文字にしていると話されました。

4月の講師は第一生命経済研究所の熊野英生氏、双日総研の吉崎達彦氏です。（日暮良一）